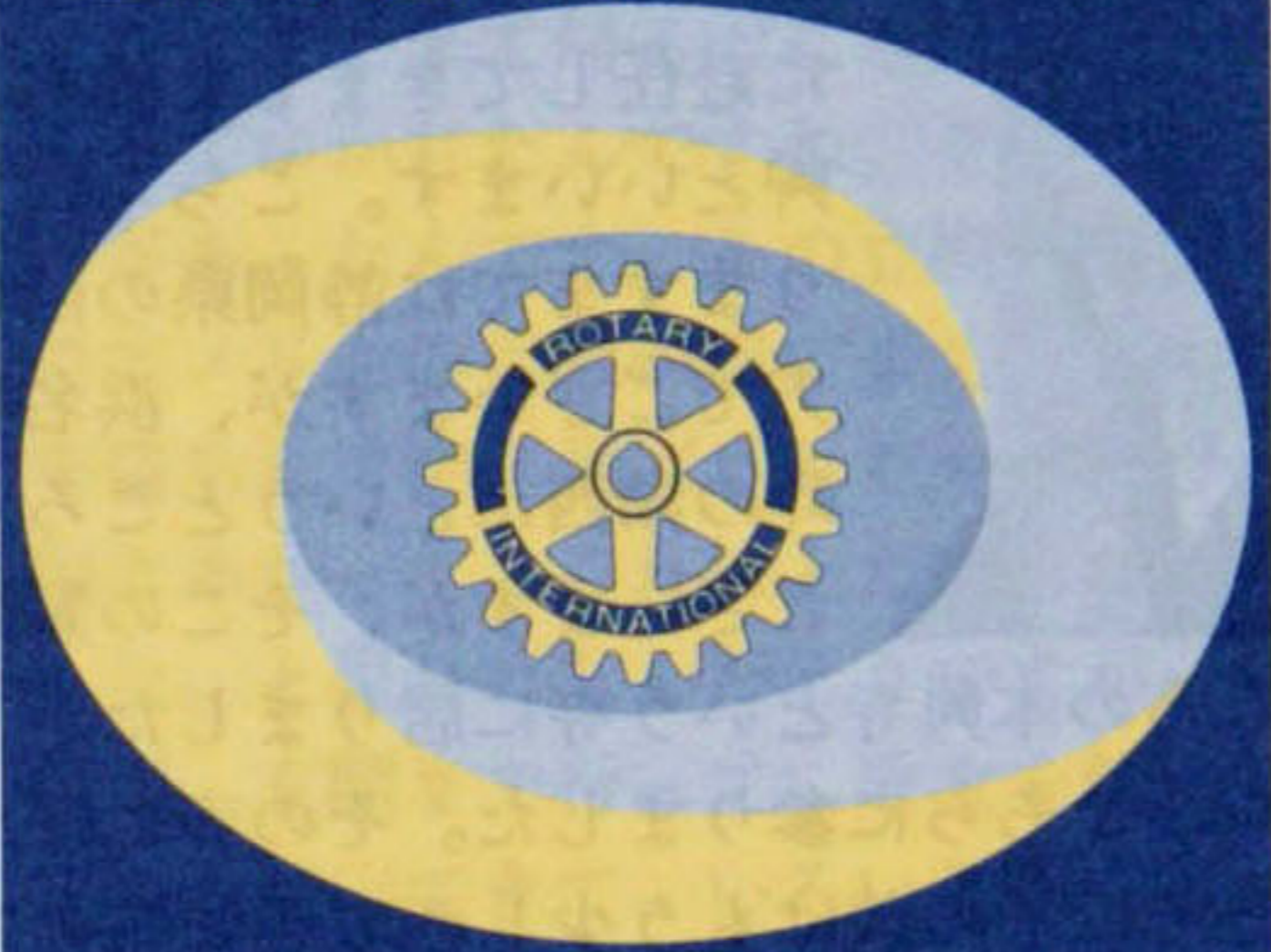


意識を喚起し



進んで行動を

私達の使命は…

…私達のクラブ

…地域社会

そしてあまねく広く世界において

2000～2001年度 国際ロータリーのテーマ

第2560地区
ガバナー——吉田 昭 平
会 長——斎藤 弘 文
会長エレクト——五十嵐 昭 一
副 会 長——松谷 昊 吉
幹 事——丸山 行 彦
副 幹 事——清水 良 一
S A A——荻根 沢 隆 雄
副 S A A——中村 和 彦

例 会 日——毎週水曜日 12:30～
例会場及び——三条市旭町2-5-10
事 務 局——三条信用金庫本店内
例 会 場——TEL 35-3311
事 務 局——TEL 35-3477
FAX 32-7095

本日出席会員数	72名中 23名
先々週出席率	91.55%

先週のメイクアップ

11/27 三条南へ
長谷川有美さん
11/28 三条北へ
五十嵐総一さん、吉井俊介さん



早朝例会 於本成寺 会長挨拶

松谷昊吉副会長



おはようございます。夏場ですと今朝家を出てくる位の時間はもうかなり明るいのですが、さすがに11月も末になりますと、まだ真暗で寒くて着替えて外に出るには勢いで出てくるような感じでしたが、そんな中

23名御参加いただきまして、ありがとうございました。

本日会長は所用でおいでになられませんので、代理で御挨拶させていただきます。今年もと言うより今世紀も残り1ヶ月となりました。世紀末だからと言う事では無いのですが、世界のあちこちでトラブルが、あるいはその火種が続発して

いるように見受けられます。誰もが平和であってほしいと思願っているにもかかわらず、願っている人間同士がそれぞれの主義主張のために兵器を持ち、それこそ平和のためにと引金を引き合っているのですから、矛盾してもおりますし残念でなりません。世に争いの種は尽きまじと言いますが、世界の流れは平和に向っている訳ですから、1日も早くトラブルが解消され、平穏な生活に戻ってほしいものです。本日これから管長猥下のご講話を拝聴していただき、その後朝食をとっていただいで解散となりますので、宜しくお願いたします。

12月のお祝い



◎会員誕生祝

- 3日 成澤敏明さん
- 10日 広岡豊作さん
- 12日 鈴木宗資さん
- 16日 小林九満太さん
- 22日 早川昭雄さん

◎夫人誕生祝

- 11日 清水節子さん(良一)
- 18日 菊池まゆみさん(涉)
- 18日 萩根沢愛子さん(隆雄)
- 25日 山浦美枝子さん(日出夫)
- 25日 佐藤成子さん(武)

◎結婚記念祝

- 4日 渋谷健一さん
- 9日 杉山幸英さん

講話

本成寺管長 鈴木日艸殿



お早ようございます。私は今年の6月21日に、当山に赴任してきました鈴木日艸と申します。こちらに参りますまでは静岡県の西の方でございますが、浜名湖畔の湖西市というところがございまして、その驚津というところの本興寺という寺に居りましたが、そちらから、こちらに参りました。その寺には12年居りまして、その前はもう少し西の愛知県の岡崎の厳ジョウ寺という寺に、38年居りました。この寺は任期が決っております、5年でございますので、もう既に、半年過ぎまして残り4年半で、直ぐに帰ってまいります。今度は行き場が無いであります。

愛知県に居りました時、私はお連れで酒屋さんであります。四国の松山の旧制高商を出た方が居りまして、その方の話しから申し上げていきたく思います。その松山高商に高橋という先生が居られました。この先生はフランス語の先生で、戦時中はサッパリ売れない先生で、……ご承知のように私共の年代の人間であります。昭和18年に皆な学徒動員に出してしましまして、19年には学生の徴兵延期というのが廃止になりました。根こそぎ戦争に出た訳です。年の足りない人達だけが残って、その人達は、工場などに働かされたのですが、たまたま、この学校でも残った方の人達が九州の方に出まして、さる工場の寄宿舎に入れられて、そこでその仕事をやったんです。

丁度昭和20年8月15日に戦争が終りまして、皆喜んで松山に帰った訳であります。ところが、その後文部省の方から各々勤労奉仕に出た人の残務整理といいますが、その結末の報告書を提出するようにとの要請がきまして、そこで学長が高橋先生にご苦勞だけども、もういっぺんそこに行って、よく調べて記入して出して下さいと……そんなことで先生は又、九州に行かれたんですが、……自分の知った所ですから簡単に行けたんですが……困ったことにその寄宿舎が進駐軍に接収されていたんです。接収されて、表札みたいなものが出ておまして、それに、その辺の、その人はアメリカ人ですが……進駐軍の隊長の宿舎になっているという表示が出ていたというんです。

この話は差し支えがあるかも知れませんが、私

が聞いたのは三浦太郎という……亡くなられましたが……松山高商を出た人の話ですが、後に松村先生が“説話百花”というところで書いておられます。ちょっと内容が違いますが、同じことを言っておられます。そこで先生は困ってしまいますが、しかしここまで来て帰る訳にも行かず、その入口から入ってゆかれたんですね。その門と玄関の間に立樹があったんです。その立樹の暗闇の中から一人のアメリカの兵隊が出て来て、先生は財布と時計を盗られて突き飛ばされたんだそうです。先生は起きあがって、これはとんでもない所に来てしまった。と思われたんだんですが、帰る訳にもゆかず、玄関まで行って、取次を頼んだところ下士官の人が出てきて、いろいろ聞くもんですから、こういう訳で参りましたと用向きを言ったところ、チョット待ってと奥に入って行った。やがてその隊長さんが出てきて、どうぞお楽にと……大変話の分かる人だったんですね。そこで用件を話したところ、話は分かった。しかし時間も遅いから、今日は宿って仕事は明日にしたらということで、先生は資料は2階の部屋で、これこれだと言ったところ、その部屋は手を付けていないし、それらは有るだろう、そこには寝具もあるから、それを使いなさい。ということになり、そこで一泊し、次の日は資料により仕事も終り帰る段になって、先生はハタと困ったんですね。

お金も時計も無くなっている訳ですから、困ってしまいその隊長さんに、昨日私の不注意の為、お金と時計を落してしまったと言ったんですね。申し訳ないが帰るためこれだけのお金が必要なので、お借り出来ないかと頭を下げて頼んだんだそうです。誠に格好の悪い話で、もしこれが日本の兵隊さんだったら頼んでも貸してくれないでしょうが、相手の将校は……隊長さんですね……黙って先生の顔を見ていて返事をしないんだそうです。暫くして、あなたは昨日無くしたというが、盗られたのじゃないかというんですね。先生は、いいえ私の不注意のため落したんですと言った。ところが又黙ってしましまして、盗られたんじゃないのか、と又言った。いいえ、私は自分の不注意のため、落しました。

そこで、将校は立って隣の部屋に行ってしまった。これは、まあ、駄目かなと思って心配をしておりましたら、又入って来まして、今度は一人の従卒を連れて来たんですね。当番兵のような人なんでしょう。見るとその当番兵が盆のようなものを持って来たが、その中に先生の時計とお金に乗っている訳です。そして、これはあんたのものが、と……先生はそこで嘘は言えませんが、これは私のものです、と言ったんですね。そしたら、も

しも、これがお前のものなら落したんじゃないかと、盗られたんじゃないのか、と将校は言葉を荒くして、怒るように言った。それでも先生はどう思われたか、いいえ、私の不注意のため落したんです。盗られたんではありません。落したんです。と言って念を入れて言ったんですね。そしたら将校は暫く黙っていましたが……又、もう一言、本当にあなたは落したのか、盗られたんじゃないの、と穏やかに言ったそうです。いいえ、私の不注意のため落しました、と言ったら、その将校はパッと立って両手で高橋先生の手を握って、あなたの今のその一言の言葉のお陰で、私は自分の部下を罪におとさないで済んだ。罰しなくて済みました。サンキュー、有難うと言って、どうかあなたの人生でこれから幸せがありますように、と言って頭を下げたといいました。で……先生はああよかった、財布が戻ってくればいい訳ですから、自分はそこまで考えなかったけれども、一人の男がそれで助かった訳ですから無性に嬉しくなったといっていますよ。

そこで帰ろうとしまして、玄関まで行きますと、そこに一人の兵卒がションポリとうなだれて立っていたといっています。ああ、昨日私を襲った奴だなと思ったそうです。だけど視線を逸らして出てゆこうとしましたら、その兵卒が声を掛けて、私はあなたの大切なものを奪って、あなたを苦しめたにも拘わらず、あなたは私のために最後まで私を庇ってくれた。それを隊長さんから聞いたというんですね。それを聞いて、私は今まで、そんなことは考えなかったけれども、あなたの言葉の中に神の心を知ったと言ったんだそうです。うまいことを言ったものですね。そして有難うございました、と頭を下げてたんだそうです。そしてその兵隊さんは自分のポケットからタバコを2つ出して、私、何も持っていませんが、これが感謝の印ですと言って、先生にタバコを出したというんです。先生はタバコは飲まないんですが、学校に帰れば、誰かのお土産になるからと思って、有難うと言って受け取り、ポケットに数珠があったので、私も持っていないが、これを記念に上げると言って兵隊さんの手に掛けてやった。その兵隊さんの目は潤み、涙が出ていたそうです。数珠を掛けてやりながら、これから何か悩むことや、怒るようなことがあったら、どうか、この数珠をなでて、今日のことを思い出して下さい。そしてサヨナラと言って出て行ったんですね。入口を出てふっと振り返ってみると、その兵隊さんは、まだ頭を下げて、その数珠を掛けたまま、自分を見送っていたというんです。

私はこの話を聞きました時、震えるような感激

を覚えたんですね。当時は誠に情けない時代でしたから本当にそう思ったんです。

私は終戦の年に、7月18日に九州の都城という飛行場に居りまして、18日はアメリカの航空母艦が近くまで来たらしく、艦載機や爆撃機が沢山来ました。物凄い空襲がありました。私たちは飛行機を守らなければならないので、飛行場から逃げる訳にはいきません。とにかく、物凄い爆弾で、皆逃げ場を失ってチリチリになったんです。たまたま、私の飛び込んだ防空壕は満員でしたけれど、そういうところで、チョットしたケガをしまして、ここにヒビが入っているんです。手が下敷になって、こういう風になったんですが、そんなことで三角布で手をつりながら復員して帰ったんです。帰って大阪の豊中というところに私の伯父がお寺に居りましたので、チョット寺に來いということで、お寺に静養にいておりました。その時、寺からチョット降りたところに昔のコウナン高校付属の尋常小学校で英語の先生をやっている定年になっていた方……おじいさんですが……おられて、よくそこで遊ばせてもらいました。たまたま、或る時、そこにジープが止まっておりまして、進駐軍が来ていたんです。今日は駄目だと遠慮して帰ろうとしたんですが、ところが……丁度3人程の兵隊が出て来た。見るとまだ10代です。18~20歳くらいの兵隊が皆、チューインガムなど喰べて、誠に行儀が悪いですが、身形は素晴らしい格好をしております。日本の軍隊と違って頭は調髪して、きれいに分けておりますし、コッペパンのような帽子をかぶって、きれいな格好をしております。どうもアメリカの兵隊ではなさそうです。私は彼等が出て行ったので、先生、今日はと入って行きました。

ああ君、いいところに来た、うまいものあるで、チョコレートあるわ、というんで上った。先生、今なんですか、アメリカか何か分らんが進駐軍の兵隊が来ていましたねと言った。ああ、君見たか。はい、見ました。何しに来たんですかと聞いたら、そしたら先生は暫くして、言っているか、悪いか分かんが、大笑いだよというんです。彼らは立派な形はしているが、自分の名前もロクログ書けないんだよ。で……何しに来たんですかと聞くと、家族に書く手紙と、ひとりがガールフレンドに書く手紙の代筆を頼みに来たんだというんです。へえっ、代筆をこんなところに頼みに来たんですか。僕の友人が通訳で進駐軍に務めて、それが紹介してくれて、何でもいいから書いといて名前だけ入れてやると結構、いいアルバイトになるからというんです。それから、今日がその第一号だというんです。はあ〜っ、そうですかと答えたものの、

私はその時、何とも言えようのない気持になりました。こんなのに負けたのかと、本当に悲痛な気持になりました。これは、まあ、冗談と思ってもらって結構ですが……

戦争が終り4~5年は本当に辛い時代だったと思います。食糧難や生活難で新聞には、毎日毎日、暗い話が載っておりました。いろんな問題で、心のゆとりを失って貧しさのために、或は幸福のために、いろんな事件が起きて、昔からいう、衣食足りて礼節を知る、ということ単純に私は、こういうことを言うんだなあ、……もう少し私たちは豊かになれば人の心も穏やかになり、こんな事件も無くなるだろうなあと考えておりました。

そんなことが皆、そういう傾向になって、物質的な豊かさを追いかけるようになって、精神的なゆとりというものが顧みられない時代がございました。その結果、我国は非常に、経済的には発展をしまして、私らが考えていたよりも豊かな国になった訳でございます。

今、バブルが崩壊して、いろんなことがありますが、それでも、あの時のことを思えば、比較になりませんですね。私共、たまたま通って来たところが岩国から広島、そして神戸の焼けたところを見ました。大阪の焼けたところも見ました。そして名古屋を見、横浜を見、東京を見ました。本当によくこれだけ焼けたと思う程、皆廃墟になっていました。だから、あの時も居る人だったら、日本は果して、元通りになるだろうか心配があったと思います。本当に凄いな負け方だったですね。そういうところで今日の繁栄など予測出来なかったと思います。

ところが、今日こんなに立派に、豊かになったのに、犯罪だけを見ますと、減るどころではありません。大変増えてますし、又凶悪になっていますし、年令がどんどん下ってきて、どうしてあんなことぐらいで人が殺されるんだろう。どうしてこんなことが起きるんだろうということが、毎日のように起っております。

いつか、青少年の生きがいというのが書いてありまして、そこには、自分の好きなように生きたいというのが43.4%。それから、経済的にもっと豊かになりたいというのが38%。そうすると82%の若い人が、こういう考えを持っていることになります。これは恐ろしいことですね。で、……もし社会のために尽したいというのがあるかと思っただけで、3.7%しかない。こんなものを見たことがあります。今はもっと酷いかもしれない。これは完全に、物質的な豊かさだけを求めて、精神的な心の豊かさなどはここには入ってこないんですね。

私はその後又学校に行きましたが、そこで英語の先生でジョン・ブリンクレイという英国人ですが、東京裁判の時、少佐でしたがあの裁判に加わっていたようです。この先生が、その当時の日本人のお母さんの子育てのことが気になるからと言って聞かせてくれたことがあります。

それは、日本のお母さんは子供が転ぶと直ぐに飛んで行って、直ぐ起すというんですね。私の国はあれまではやらない。飛んで行くけれども、子供が起きる力を持ってれば、起きなさい。と言って自分で起こさせるというんですね。自力で起きるのを見届けるように親は飛んで行く。もし、手を折ったというのであれば、勿論、手を出してあげるが、そうでなければ自力で起きるようにする。そこところが随分、違うと言っておりました。それから、もっと酷いのは日本家屋に友達の家族のところに行った時、数回見たんだと言って、……子供が敷居や畳の上で転ぶと親はこれも飛んで行って、そして、直ぐに子供を抱き上げて起す。起す必要はない。起きなさいと言えばよいのに、それをしない。その上、お負けに敷居を親が叩いているというんです。また畳を叩いているんですね。恰も、お前は悪くないんだ。この敷居が悪いんだ。又はこの畳が悪いんだと言わんばかりに子供を庇っている。実に馬鹿馬鹿しいことをやっていますねと言っておりました。

近頃、ペットを飼っている人がいますが、ペットといっても犬か猫ですが、子供が、その犬や猫の耳やヒゲを引っばっている。それでも親は何も言わない。そのうちに、ペットが我慢出来なくて、子供に刃向かおうとする。すると親は慌ててそのペットを叩いているというんですね。そして、子供を庇っている。これは、その時教えるべきです。ペットは生きているんだ、そんなことをするんじゃないと教えるのが本当なのに、そうじゃなくて子供を庇って、犬を叱っている。

これは、更に話が進みまして、もっと残酷なのは子供に虫を与えるというんですね。コオロギやトンボです。それも、やたらにです。子供は喜んでうちがいいが、その内にコオロギやバッタの足やヒゲを千切っても親は黙って見ているというんです。これはいけませんなあ。と言っていました。これは残酷だ。子供は遊びかも知れないが、動物にしてみれば命に関する問題だ。手を取られ、足を取られ、片輪にされている訳です。それでも親はニコニコ笑っている。もしも、こんな無神経な子供の育て方をしていれば、日本は近い将来、駄目になってしまいますよ。こんなことをやらしては駄目だということですね。自分の利益のために他人の迷惑を考えない人間ばかりになって

しまうのじゃなからうかということ、このジョン・ブリンクレイという先生が言っていました。

今は丁度、そのお母さんの子供の子供。孫の時代になっていると思うんですが、当らずと言えども遠からずということがチョイ・チョイ起きているのが、……良く見ているなあ……先生の洞察力の鋭さが当たっているような気がしました。

いつ頃でしたか、朝日新聞に亡くなられた遠藤周作先生が、こんなことを書いておられました。戦後の日本人のこの生活はアメリカ人の生活だった。部屋の中にテレビを置き、車に乗り、プレスのきいたズボンをはき、ああゆう格好で歩けたらなあ、という幸福のイメージがアメリカ人を見て、日本人がそう思った。ともかく、働き蜂のように日本人は働いた。そして、やっとそれらを手に入れた。だけれども、これは物質的なものだから際限がない。幸福の求め方が違っているんだ。それを得た時には、それをチットも幸福だとは思わない。これは私たちの経験で申しますと、かつて食糧難の時、昼間は古兵に殴られ通しですから、少年兵は何も考える余裕はありません。けれども消燈ラップが鳴ったら自分の身体になりますから、布団に入りますと、もう疲れていますから泥のようになって寝てしまいます。

それでも、夢は見ます。その夢は何を見るかと言いますと、大概、皆銀メシ喰っている夢ですよ。これは如何に腹が減ったかということですよ。少年兵ですよ。古兵はたんと喰べますから……皆、空腹に耐えていますから、皆、昔腹一杯喰ったということ覚えてますから、しからば、今、腹一杯喰えるようになったら幸福かということ、そうじゃないんですね。昔のことは皆忘れてしまって、その次のことですね。次はいい服を着たいとか、別のことに目が行ってしまって、それを得た時は決して、幸福感はないんですね。これは物質的な要求は、みなそういう風になるんです。

昔は少欲知足という言葉がありました。小さな欲で足りることを知るという言葉で、足りることを知らなかったら満足感は何もないんです。

越後には、良寛和尚という方が出ておられます。良寛さんの詩で、好きな詩は「焚くだけは 風が持ってくる 落葉かな」というのがあります。これは少欲知足を詩にしているものですね。

このことについて私たちの宗祖の日蓮聖人はどういう風に考えておられるか。今から728年前、文明9年の2月です。旧暦の2月ですから、大変寒い時に「カイホクショ」を書いておられます。この中で世間の人々の求めて止まない幸福は、地位・名誉・権利・財産のこの4つが幸福の概念の中に入っていると思うが、大聖人はこの4つは皆

外しておられる。どうしてかという、大聖人のお生まれは南国の安房です。千葉県ですが、そんな方が極寒のこの佐渡の地に流された訳です。しかも着ているものは何かという、暖房器具もない中、本当に帷子だけです。麻織りのひとえものの白衣だけです。それに衣を着ているだけです。ブルブル震いておられる。しかも、喰べるものが充分ないから、お腹が減っているはず。空腹で寒い格好をしている訳ですから、地位も、名誉も、権利も、財産も全々関係ない。その立場で書いた御書の中に、

当世、日本国に第一に富めるものは日蓮なるべし、と先ず書き出しに、そう書いてある。この今世の中で日蓮程、富める者はないだろう。富める者ではない、富める者とは心の豊かさをいう訳です。命は法華経に奉り、名をば後代に止めし、と書いてある。これは、そういう今の4つの中に幸福はあるのではない。

大聖人様は、どんな苦難に会っても、或は、どんな環境に落されても、それに対して真直に向い会って、それを切り抜けてゆく能力を与えられること、これが一番の幸福だと……私はいつの場合でも、その置かれた環境で、置かれた場所で、それに対して、いつも自分の力で、それを処理してゆく能力を仏様から与えられたことを非常に喜んでいる。そういう意味で、当世、日本国で第一に富める者は日蓮なるべしといっているんだということを言っております。

非常に味のあるお言葉ですが、これは日蓮聖人の幸福感といえはそういうものでございます。私は鷺津に居った時もこうした話をチョイ、チョイさせてもらったのですが、皆様は忙しくて、忙しくて話を聞いておられませんなどとよく言われます。で……お陰様で仕事は順調に行っていますが、忙しくてしょうがありません。これは言い直すと、仕事があるということは、物では栄えてくるけれども、心は亡んでいる、亡んでいると言っているのと同じだよ。と言ってやった。忙しいという字はリッソペンハ心という字です。だから忙しいというのは私の心が亡んだ、亡んだと言っているのです。このことはあまり良くないから忙しいということは言わない方がいいですね。と申し上げたことがございます。

私たち仏教ではお互い生かし、生かされて、生きています。誰かに支えられ、又誰かを支えて生きている仕組みになっているのです。誰かをはずすとバラバラになってしまう。一人で生きてゆくなどということは出来ないのです。

人間として、一番大切なのは何かという、掛け替えのない毎日ですから、一つは人生を大切に

することです。私たちの人生は有限です。皆限りがある。限りがあるからこそ、生きている間に、どれだけのことが出来るか、皆考える。これが生きがえですね。生きがえというのは生きざまですから、限られた命を、どういう風に有意義に使うか。限られた生命を意義あらしめたい。これがひとつです。もう一つは生きとし生けるものに対する思いやりが大切です。無益の殺生をしないということです。

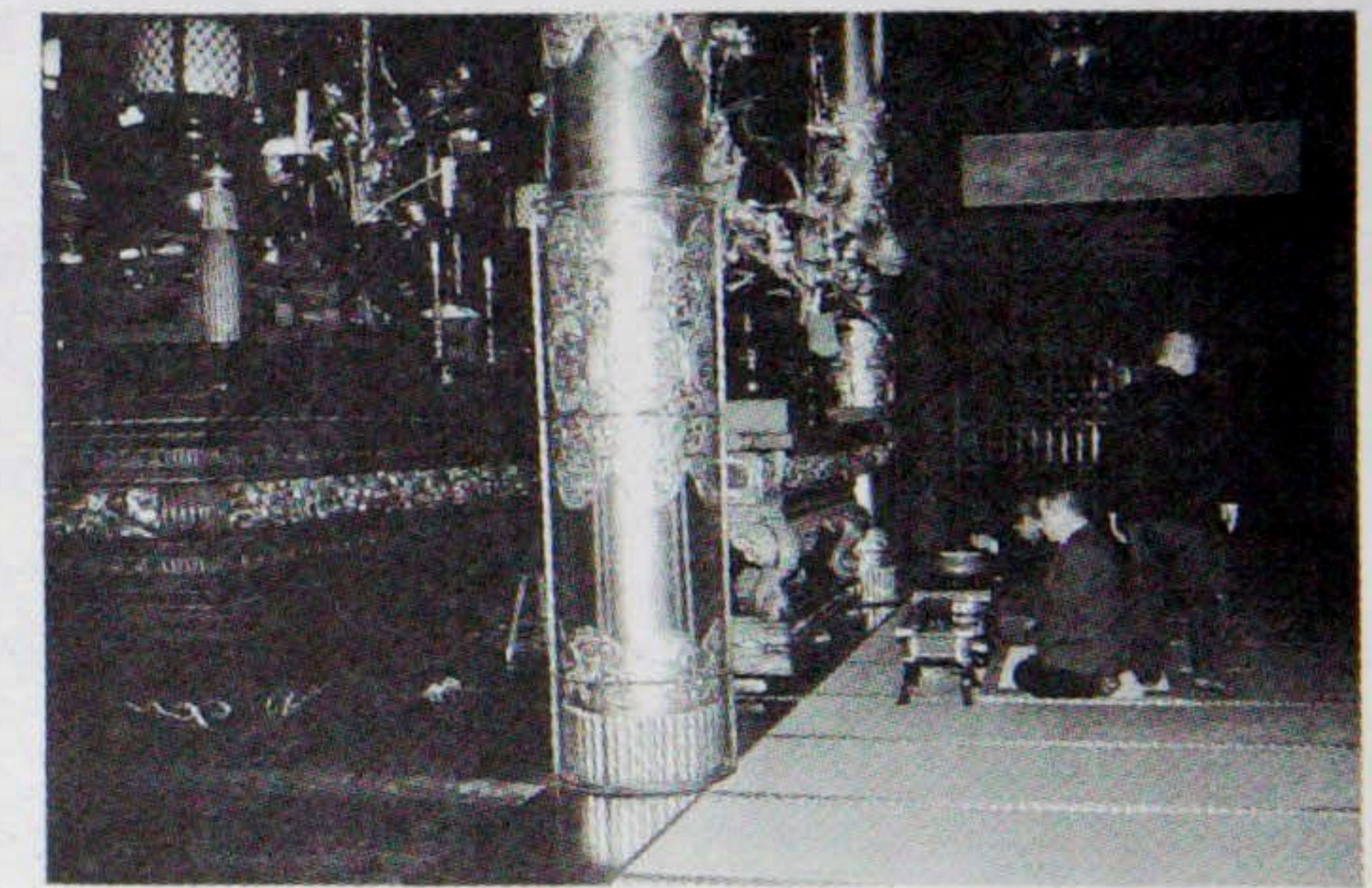
私の居りました鷺津の寺は桜の名所でありまして、春になると一杯いろんな人が来ます。酔っ払って来ると見境なしに花の枝を折るんです。花は折らないで下さいと言うと、何だ坊主のくせにケチなことを言うなという。坊主だって関係ありません。こういう人は思いやりのない人ですね。自分が楽しんだから、もう関係ないと帰る時には花を折って、担いで行ってしまふんですね。それは止めてくれとよく言いました。全ての物を大切に。これは勿体ないということをいうんですが、全てに仏性があると言うんです。

お寺の庫裡の人口のところに冬ですとお湯が沸くようにしてあり、夏は冷たくしています。そしてバケツに水を張りザルに湯呑を置き、ご自由にお飲み下さいと書いてある。皆、喜んで飲んでくれるんですが、或る時、小学校の生徒が大勢入ってきて、我勝に早く水を飲もうとした。その内の一人が手を滑らせてお茶碗を落して割ってしまった。丁度私が通り掛ったので、危ないからその湯呑だけ、こっちに置いてよ、あとで私が片付けるからと言ったが、どう勘違いしたか、その母親らしいのが、その後に居て、その湯呑いくらですかと私に言った。そんなこと言っているんじゃない。危ないから、こっちに置いといてと言ったんだと言ったら、お金を払えばいいんでしょうと言うんです。それを聞いて、ああ情けないことを言う親だなあと……全てのもを直ぐ、お金で換算する人がいるんですね。これはどうしても止めてもらいたい。

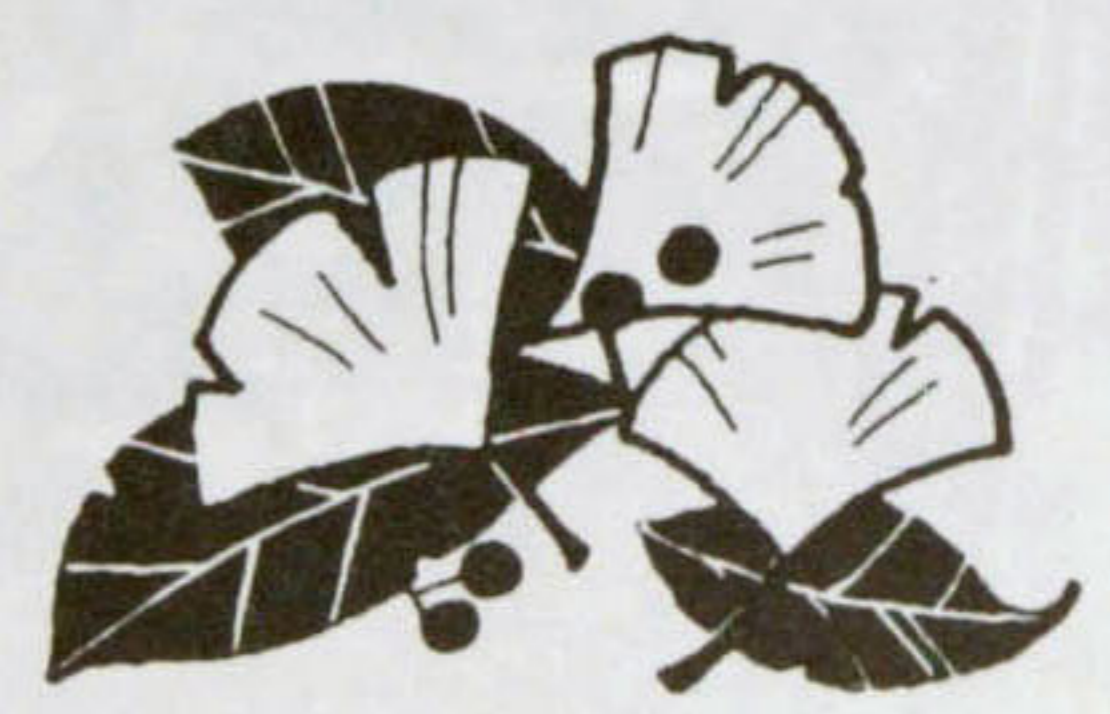
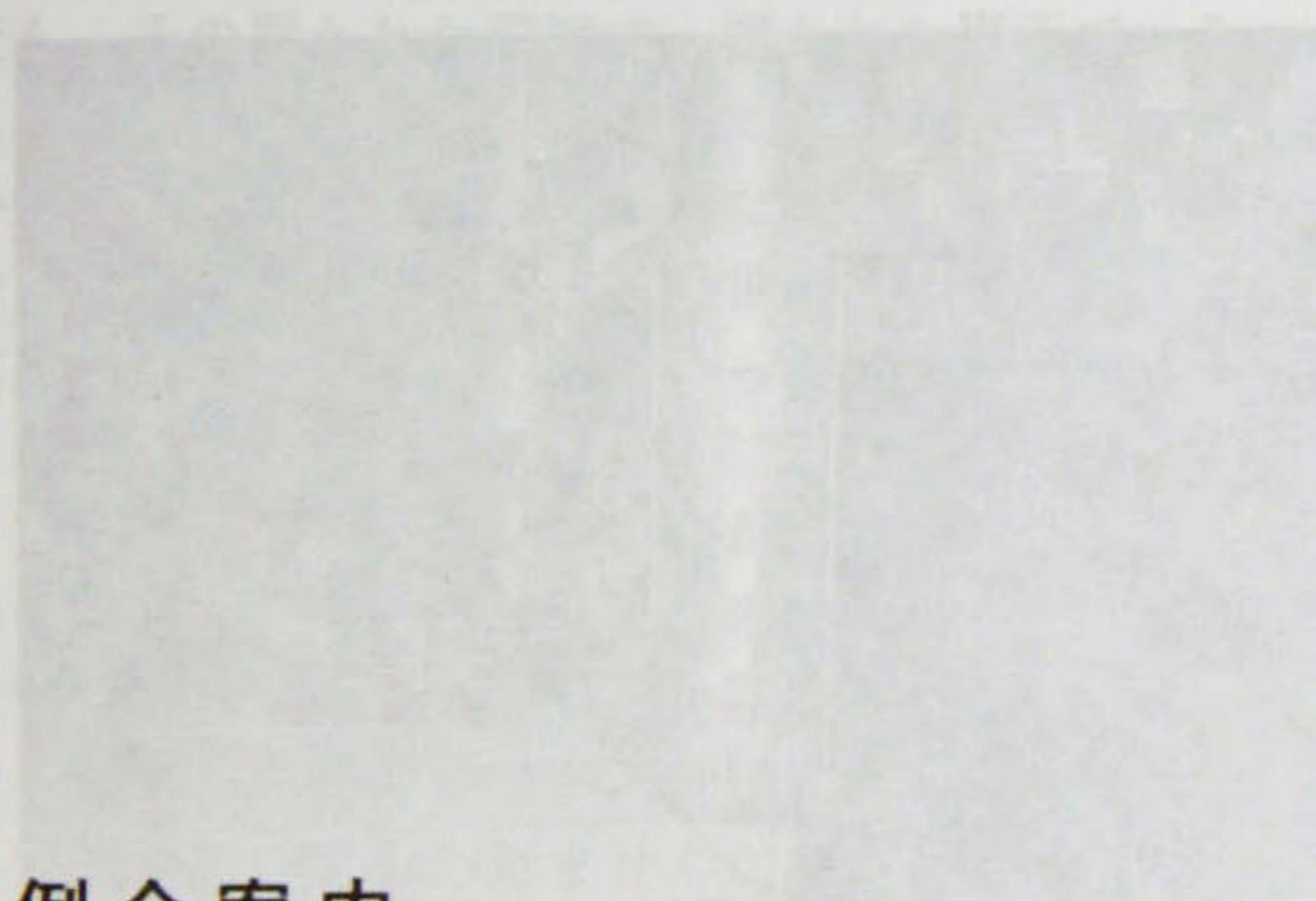
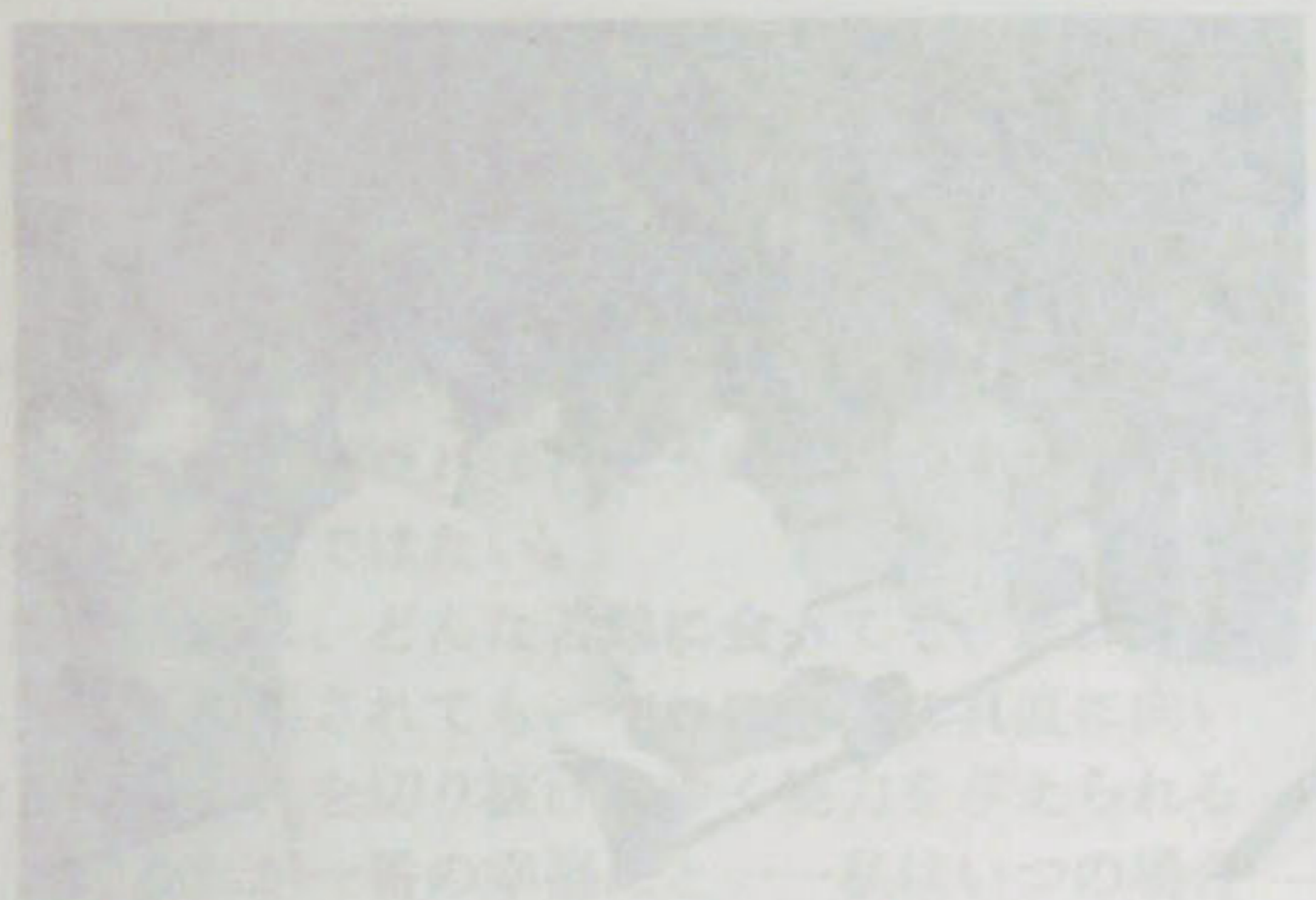
これが最後ですが、時を大切にということです。私たちは過去と現在と未来があります。いつも現在に生きている訳ですが、過去のことを言っても、もうどうしようもないです。未来を決めるのは現在です。だから現在が大切だと思います。大聖人はこう言っておられます。

過去の因を知らんと欲せば、現在の果を見よ。未来の果を知らんと欲せば、現在の因を見よ。

非常に味わうべき言葉ではないかと思えます。今日は寒い早朝から、ご修業して戴きました。誠にご苦労様でございました。有難うございます。



万が一おられる。どうしてか
 知事さんは若国が定例です
 なるが、この定例の地
 かも書いているものは何かとい
 い中、本当に様子だけでは
 の白紙だけです。それによ
 アップが書いておられる。
 分からないから、本音が通っ
 てない。思っているか
 も、使われ、お聞きか
 いたお聞きか



例会案内

三条RC	12月13日例会	卓話	アークランドサカモト(株) 会長 坂本洋司様
	12月20日例会	夜例会	忘年会 於 ティファニー

メイクアップをどうぞ

三条南RC	12月11日例会	会員卓話	
	12月18日例会	会員卓話	
三条北RC	12月12日例会	会員卓話	
	12月19日例会	夜例会	於 おゝ乃
加茂RC	12月14日例会	会員卓話	
	12月21日例会	夜例会	家族忘年会 於 わか竹
燕RC	12月14日例会	通常例会	
	12月21日例会	夜例会	クリスマス家族会
見附RC	12月14日例会	会員卓話	
	12月21日例会	忘年会	於 太田家